

# 文芸

## 俳句

馴れし道ちよつと行き過ぐ秋の暮

伊藤 敬子

初冠雪錦の衣引き摺りし

今関満喜子

音もなく逃げる日脚や十二月

川島 通則

廃屋の土蔵の前や柿熟るる

向後 寛

心技体六段になり小春空

越川せつ子

稲刈りの後の道々泥土産

小松 藤男

闇のなか金木屋の吹矢くる

佐瀬 輝夫

鞆の母と私と娘かな

椎名万里子

秋うららふれあふ芝の球を追い

市東富美江

焚火の輪老婆三人よく喋る

鈴木とし子

紅葉濃き山道を縫ふ人の波

玉虫 栗扇

火をつくり凍てつく朝の明けを待つ

土屋美枝子

掌に包むラジオと日向ぼこ

土屋 義昭

紅葉散る坂道に散る我が身にも

戸村 静華

干大根自在に入る樽の中

内藤 くに

ハーモニカ誰が吹くやら夕紅葉

早川 勇

径掃く音のきりなし秋深し

藤田 雅夫

## 短歌

どう。いいね。多くは要らぬ旧友と

会えば真直ぐのれんくぐりぬ

今日の日の再びなきを惜しみつつ

年賀の葉書き初めにけり

黄葉のいちよう落葉を屋根に乗せ

小さき社は今を輝く

……

……

……

……

……

……

……

……

……

すれ違ふベビーカーの中ふと見れば

犬にありしよ温温として

返り咲く白きつつじの花の上に

蝶が飛び交ふ晩秋の庭

朝早く鳴りしチャイムのモニターに

友の笑顔と大根うつる

このスーツ母の遺愛の着物より

作りし一枚大切にせむ

帰りゆく娘を見送ると立つ庭に

上弦の月冴え冴えと照る

匆ね出しの語に傷あとあらはなり

狸かはたまた白鼻心奴か

入賞をのがして菊の花鉢を

返されし友菊贈つくる

母植えし庭の白菊多に咲き

墓前に供うと持ちて行きたり

我が家の竹を使ひて作りしと

鶴とキリンを友よりたまふ

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

## 作品展

### ◎町民会館ミニギャラリー

- 1月 水墨画クラブ
- 2月 木目込みクラブ

### ◎文化会館ロビー展

- 1月 絵手紙ひかりの詩
- 2月 陶芸クラブ

### ◎サビア展

- 1月 写友会
- 2月 短歌会

### ◎銚子商工信用組合展

- 1月 アート押し花クラブ
- 2月 横芝写真クラブ

## こうほう博物館 94

### ずんぐりした狛犬

屋形の四社神社では、年明け早々に神楽が催される。この神楽は、猿田彦や田耕、恵比須などの面を被り、滑稽な所作などで舞う十二座神楽で、江戸時代に伝わったものとされる。

今回は神楽ではなく、神社拝殿の前に鎮座する狛犬を紹介しよう。

狛犬は神社や寺を守る空想上の動物で、もとは中国から伝わった獅子が原型とされ、犬の形ではなく獅子の形が多いのはそのためである。

しかし、四社神社の狛犬は正面を向き、ずんぐりした形で、あまり精悍さはなく、可愛らしい姿である。狛犬が座る台座には元禄六(一六九四)年の紀年名が彫られ、江戸時代前期に造立



▲拝殿の前に鎮座する狛犬

正月は四社神社の神楽とともに、町指定有形文化財のユーモラスな狛犬を拝んではいかが。(社会文化課 道澤 明)